

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-131	A-135	13-004	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)			
Alcohol-use disorders during and within one year of pregnancy: a population-based cohort study 1985-2006. 妊娠中及び妊娠 1 年以内の飲酒関連疾患：人口ベースのコホート研究 1985-2006			
執筆者			
O'Leary CM, Halliday J, Bartu A, D'Antoine H, Bower C.			
掲載誌			
BJOG. 2013 May;120(6):744-53. doi: 10.1111/1471-0528.12167. Epub 2013 Feb 19.			
キーワード			PMID
原住民、飲酒と妊娠、飲酒関連疾患、胎児性アルコール症候群、疫学			23418853
要 旨			
<p>目的： 妊娠女性の飲酒関連疾患と過少申告の程度を検討する。</p> <p>方法： 西オーストラリアの人口ベースのコホート研究であり、対象者は西オーストラリア助産師通知システムに出産記録された女性である（1985-2006）。ICD9/10 分類にて飲酒関連の診断があった非原住民 5,839 人と原住民 2,583 人を対象とし、出産年齢、出産年、民族をマッチさせた飲酒関連診断のない非原住民 33,973 人と原住民 8,005 人と比較した。非原住民、原住民の妊婦における飲酒関連疾患のトレンドを検討した。飲酒関連疾患のある妊婦における胎児性アルコール症候群（FAS）の頻度も検討した。</p> <p>結果： 西オーストラリアにおける飲酒関連疾患のある原住民妊婦の頻度（23.1%）は、非原住民（2.3%）の 10 倍であった。飲酒関連疾患のある出産の増加は非原住民では 6 倍だったが、原住民では 100 倍増加した。FAS の児の母の 70%は、妊娠時の飲酒関連疾患がなかった。</p> <p>結論： 妊娠中の妊婦の飲酒は顕著に過小評価されていた。母胎内でのアルコール曝露は胎児の危険を伴うため、母子保健などの現場において飲酒の評価と記録を恒常的に行うべきである。</p>			